



季節の風の声がきこえる家



山に向かって、風に向かって
丘の上から「ヤッホー！」



家を建てるなら
変わった土地が良かった。
アイデアひとつできっと、
面白い建物になるから。



髪を、頬を、楽しげになでていく。
玄関の向こうで、私たちを歓迎して
くれたのは一陣の風だった。
「本当に風が気持ちよくて、今年の
夏はクーラーをほとんどかけなかつ
たんじゃないかな」。

ご主人の言葉に奥さまもうなず
く。そうだろうなあ。この家のまわ
りには風を遮るものが見当たらない
のだから。

眼下に二面の田んぼを眺める日さ
んご家の住まいは、小高い丘の斜面
に建っている。

「もともと区画整備された土地で
はなく、どちらかというとちょっと
変わった土地に家を建てたいと思っ
ていたんです」とご主人。心惹かれた
のは、不動産屋も最初は紹介するつ
もりがなかったという、斜面に拓か
れた土地だった。

e. 0 な暮らし
覗いてみませんか

空と、緑と、風と。
自然と仲良く暮らしています。

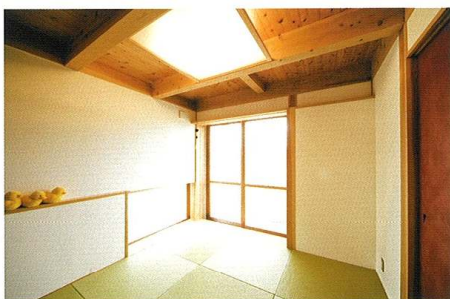
普通じゃなくて、ちょっと変わっててくらしい土地がいい。
冒険心あふれる日さんご一家が選んだのは
小高い丘の斜面に拓かれた土地でした。
眼下に広がるのは四季折々に表情を変える長閑な田んぼ。
すぐ近くには、糸島富士と呼ばれる可也山もどっしりと。
夏は山から届く涼やかな風がエアコン代わり、
冬は薪をくべた暖炉の炎が優しくわが家であたためる。
自然の中で暮らすよるごびを満喫しているご家族です。



設計・協力：アミ環境デザイン



LDKはもちろん、
和室やバスルーム、トイレ、洗面所も
木の温もりにあふれたH邸。
扉はすべて引き戸で統一されている。



自然を間近に感じられるH邸。
窓枠は表との違和感をなくすため、
すべて木枠に。開け放った
時に視界を遮らないよう収容ス
ペースも確保されている。



ながら暮らすという発想だった。
「間仕切りはすべて引き戸にしてほ
しいとお願いしました。室内で鍵が
かかる扉はトイレだけです」。
引き戸を開け放っておけば空間
は上から下までぜんぶ、ひとつ。た
だし、旧来の家屋と大きく違うところ
がある。昔ながらの日本の家は平屋
造りが主体だけど、Hさん宅は斜面
を生かした2階建て。玄関は2階。
中に入ると木に囲まれたリビング、
そして琉球畳を敷き詰めた和室が
お出迎え。中2階は子どもたちのロ
フト、階段を下った1階は夫婦の寝
室だ。それらが全部つながっている。
家の外と中にもはつきりとした区切
りを設けないように、窓の建具もア
ルミではなく木製を選んだ。
「木はやはりいいものです。床はカラ
マツで、足への当たりがとてもやさ
しい。はだして過ごすのが一番です。寒
くなったら、この新ストーブの出番で
すね。ストーブの揺らめく炎は見てい
るだけで気持ちが癒されます」。
肩の力を抜いて、自然のちからと
寄り添いながら、日々を楽しむ暮ら
しているHさんご一家。暖炉に火が灯
る冬もまた楽しみだ。



家族のことや暮らしやすさ…
考えた末にたどり着いた
自然に還る素材の魅力。



「田んぼから家が建っている土地
までの高低差は7メートル。ひと言で
表すなら、崖ですね(笑)。でも、こ
んなめちゃくちゃな土地だからこそ、
アイデアひとつで面白い建物ができ
るんじゃないかなって。漠然とです
が、そんな確信がありました」。
家族の健康や暮らし心地を考え
て、できるだけ土に還るような自然
素材を使った家を建てたい。そんな
想いから、ご主人は家の構造や断熱
材についてかなりの勉強をしたとい
う。休みを利用しては図書館へ通い、
家づくり関連の本をすべて読み漁っ
た。その中でも、もっとも気になった素
材がセルローズファイバー。古新聞な
どの廃材を再利用する断熱材だ。
「特殊な先端技術というよりも、身
近にある廃材などを再利用したシン
ブルなアイデアがとても気に入った。
予算的にもこれなら無理なく
取り入れられそうでしたね」
設計を依頼したのも、この断熱材
を使った家づくりで実績を重ねてい
た会社だ。設計にあたって参考にし
たのは、古い日本家屋の間取り。家
全体をひとつの空間としてとらえ、
その内部をふすまでゆるく仕切り



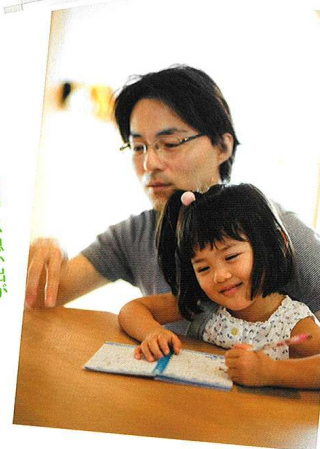
はしごをよじのぼって
階段からジャンプして
思いつきで遊べる家って
やっぱり楽しい！

幼稚園に通う息子さんは、テレビのヒーローやサッカーが大好き。3歳になる娘さんも、お兄ちゃんに負けじとその後をついて走りまわる。ふたりが大好きなのはハシゴで上るロフト。天井高が低いから、小さな子どもたちにはちょうどいい「基地」みたいだ。

家の外にもお楽しみが、斜面を生かして建てられたH邸には、家のまわりに段差をつけて花壇や自家菜園用のスペースが整備されている。そこを歩き来するための小道は子どもたちにとって絶好の遊び場。階段からジャンプしたり壁をよじ登ったり。はしゃぐふたりを見ていると、泥んこになりながら遊ぶことって、やっぱりとても大切なことだと思ふのだ。

花壇には花を植えて、畑には野菜を植えて、「これから始めたいことも、山ほどあるんです」とHさんご夫妻。新居での生活は子どもたちの元気な声と、これからの夢であふれている。

家の中が気持ちいいと
ふしぎとみんな
いい顔になるね。



子どもたちの楽しい思い出が
毎日少しずつ積み重なっていきますように。





家づくりの先輩からメッセージ

「一生に一度の大きな出来事。
先を急ぐことはいけません。
信頼できる家づくりのプロの力を借りて、
じっくり話し合う過程も楽しんで。
どこにもないわが家を建てられたら、最高！」

「普通なら1年もあれば家が建つところ、崖地のわが家は設計が終わってからの大変！ 建築の認可が下りるまで、余分に4カ月も掛かりました（笑）」と、ご主人は振り返る。施主として、ただ見守るしかできない時期もあったけれど、今はそれもまたいい思い出だ。

「専門家の方との意見交換は、とてもいい刺激になりました。もちろん、自分たちが住む家は自分たちで考えるのがいちばんです。ただ設計のプロは家に関する引き出しの量が違いますから、僕らが思いもよらなかったアイデアがどんどん出てくる。こちらの思いをちゃんと現実のかたちにしてくださいます。根気強く話を聞いてくださるハウズビルダーさんと組めば、きっといろいろな発見がありますよ。」

小さな斜面に、こんなにも態々と建てられた家があるなんて、誰が想像しただろう。こうして自然と友達になれば、無駄な資源を使う必要はない。施主と専門家の情熱がタッグを組めば、きっと道は拓けるはず。日邸で過ごしていると、そうしみじみ感じるのだった。

じつと見守るだけの日々も
今はいい思い出に
自分たちの家は
自分たちでつくるのがいちばん。

